

2014年度 事業報告書

事業年度 2014年4月1日～2015年3月31日



学校法人 聖マリア学院

St. Mary's Educational Foundation

Fides 【 信仰 】

Spes 【 希望 】

Caritas 【 愛 】

～ 連綿と受け継がれる「カトリックの愛の精神」 ～

聖マリア学院の歴史の源泉は、大正4年、井手内科医院の開設にはじまります。その院長、井手用蔵は熱心なカトリック信者で、貧しく医療に恵まれない人々を長年に亘り支援してきました。

学校法人聖マリア学院の創設者である、初代理事長の井手一郎は、父・用蔵の志を継ぎ、後の本法人設立母体となる、医療法人雪ノ聖母会 聖マリア病院（現・社会医療法人雪の聖母会 聖マリア病院）を開設し、その基本方針を、カトリックの愛の精神に基づく医療と教育の普及としました。

本学院の教育理念が、カトリックの愛の精神に基づく教育研究の実践である所以であり、その精神は、現在に至るまで連綿として受け継がれています。

信 望 愛



目次 ～Contents～

I. 法人の概要

1. 法人の概要
2. 建学の精神
3. 教育理念
4. 沿革
5. 役員・評議員
6. 設置する学校・学部等
7. 入学定員及び学生数
8. 教職員
9. 聖マリアグループ

II. 事業の概要

1. 基本方針
2. 2014年度に実施した主な事業内容
3. 2014年度入試結果
4. 卒業生の主な進路状況
5. 国家試験の合格状況
6. 学年暦

III. 財務の概要

1. 学校法人会計の概要及び企業会計との違い
2. 「資金収支計算書」の概要
3. 「消費収支計算書」の概要
4. 「貸借対照表」の概要
5. 有価証券・特定金銭信託の時価情報
6. 主な施設設備の整備状況
7. 主な事業計画履行状況
8. 大科目の経過年度比較表
9. 主な財務比率の経年度比較表
10. 平成26年度決算総評

I. 法人の概要

1. 法人の概要

法人名	学校法人聖マリア学院 (St. Mary's Educational Foundation)
代表者	理事長 井手 三郎
所在地	〒830-8558 福岡県久留米市津福本町4-2-2 番地
電話番号	0942 (35) 7271
設立年月日	1982 (昭和57) 年11月5日

2. 建学の精神

カトリックの愛の精神

主イエス キリストの限りなき愛のもとに、常に弱い人々のもとに行き、常に弱い人々と共に歩むことです

3. 教育理念

聖マリア学院大学は「カトリックの愛の精神」に基づく教育・研究を行って、豊かな人間性と深い教養を具え、高度の看護知識と技術に基づく科学的な看護実践能力を養い、広く人間社会の健康に寄与できる篤実有能な人材を育成することを目的としています。

4. 沿革

- 1952（昭和27）年 医療法人雪ノ聖母会 設立
（後の学校法人聖マリア学院設立における母体となる法人）
（平成21年より「社会医療法人雪の聖母会」に法人格変更）
- 1953（昭和28）年 医療法人雪ノ聖母会 聖マリア病院 開設
- 1973（昭和48）年 医療法人雪ノ聖母会
聖マリア高等看護学院第2科看護専門課程 設置
（後に聖マリア看護専門学校へと改組）
- 1976（昭和51）年 医療法人雪ノ聖母会
聖マリア高等看護学院第1科看護専門課程 設置
（後に聖マリア看護専門学校へと改組）
- 1976（昭和51）年 聖マリア高等看護学院を聖マリア看護専門学校と改称
- 1982（昭和57）年 学校法人聖マリア学院 設立
（聖マリア看護専門学校の設置者を医療法人雪ノ聖母会から移譲）
- 1984（昭和59）年 聖マリア看護専門学校に保健学科、助産学科 設置
（後に聖マリア学院短期大学へと改組）
- 1986（昭和61）年 聖マリア学院短期大学 看護学科 開学
（後に聖マリア学院大学へと改組）
- 1989（平成元）年 聖マリア学院短期大学に専攻科（地域看護学専攻・
助産学専攻） 設置
- 1990（平成2）年 同上地域看護学専攻に国際看護コース 開設
- 1995（平成7）年 聖マリア学院医療福祉専門学校 介護福祉学科 開校
- 2006（平成18）年 聖マリア学院大学 看護学部 開学
- 2009（平成21）年 聖マリア学院短期大学（看護学科・専攻科） 閉学
聖マリア学院医療福祉専門学校 介護福祉学科 閉校
- 2010（平成22）年 聖マリア学院大学大学院看護学研究科 開設
- 2013（平成25）年 聖マリア学院大学に専攻科（助産学専攻） 設置

5. 役員・評議員

○理事／定員：6～8名 現員：7名 任期：3年

区分	氏名	選任条項
理事長	井手 三郎（イデ サブロウ）	理事の互選
理事（常勤）	矢野 正子（ヤノ マサコ）	学長
理事（常勤）	井手 信（イデ ノブ）	評議員
理事（常勤）	井手 三郎（イデ サブロウ）	評議員
理事（非常勤）	黒岩 中（クロイワ アタル）	評議員
理事（非常勤）	檜原 利則（ハラハラ トシノリ）	学識経験者
理事（非常勤）	片岡 千鶴子（カタオカ チヅコ）	学識経験者
理事（非常勤）	青木 清（アオキ キヨシ）	学識経験者

○監事／定員：2名又は3名 現員：3名 任期：3年

区分	氏名	選任条項
監事（非常勤）	山田 隆 （ヤマダ タカシ）	理事会選出候補者のうち 評議員会同意、理事長選任
監事（非常勤）	津波古 澄子 （ツハコ スミコ）	理事会選出候補者のうち 評議員会同意、理事長選任
監事（非常勤）	永松 雄一郎 （ナガマツ ユウイチロウ）	理事会選出候補者のうち 評議員会同意、理事長選任

○評議員／定員13～17名 現員：16名 任期：3年

氏名	選任条項
井手 三郎 (イデ サブロウ)	法人職員
松尾 ミヨ子 (マツオ ミヨコ)	法人職員
矢野 正子 (ヤノ マサコ)	法人職員
安藤 満代 (アンドウ ミチヨ)	法人職員
濱野 香苗 (ハマノ カナエ)	法人職員
中村 京子 (ナカムラ キョウコ)	卒業生
日高 艶子 (ヒダカ ツヤコ)	卒業生
井手 健一郎 (イデ ケンイチロウ)	実習施設職員
橋口 ちどり (ハシグチ チドリ)	実習施設職員
中島 成子 (ナカシマ シゲコ)	実習施設職員
島 弘志 (シマ ヒロジ)	実習施設職員
浦部 大策 (ウラベ ダイサク)	実習施設職員
井手 信 (イデ ノブ)	学識経験者
上野 正二 (ウエノ ショウジ)	学識経験者
黒岩 中 (クロイワ アタル)	学識経験者
橋爪 章 (ハシツメ アキラ)	学識経験者

6. 設置する学校・学部等

聖マリア学院大学 看護学部／専攻科 助産学専攻
(St. Mary's College)

所在地：福岡県久留米市津福本町422番地

聖マリア学院大学大学院 看護学研究科
(The Graduate School of St. Mary's College)

所在地：福岡県久留米市津福本町422番地

7. 入学定員及び学生数

2014年5月1日現在

○聖マリア学院大学

学部・学科	年次	入学定員 (収容定員)	編入定員 (収容定員)	入学者数	在籍者数
看護学部 (4年課程)	1	100	***	118	123
	2	(100)	***	***	119
	3	(100)	***	***	121
	4	(100)	***	***	105

合計	収容定員	400	在籍者数	468
----	------	-----	------	-----

○聖マリア学院大学専攻科

学部・学科	年次	入学定員 (収容定員)	編入定員 (収容定員)	入学者数	在籍者数
助産学専攻 (1年課程)	1	15	***	5	5

合計	収容定員	15	在籍者数	5
----	------	----	------	---

○聖マリア学院大学大学院

研究科	年次	入学定員 (収容定員)	編入定員 (収容定員)	入学者数	在籍者数
看護学研究科 (2年課程)	1	12	***	9	9
	2	(12)	***	***	14

合計	収容定員	24	在籍者数	23
----	------	----	------	----

在籍者数合計	-----	496
--------	-------	-----

8. 教職員

○教員

	聖マリア学院大学 看護学部	聖マリア学院大学大学院 看護学研究科
教 授	14	14（併任）
准教授	9	9（併任）
講 師	6	2（併任）
助 教	3	0
助 手	11	0
合 計	43	22（併任）

○職員

	法人本部 事務局	聖マリア学院大学 看護学部
職 員	2	15
臨時職員	0	2
合 計	2	17

※上記の他、法人本部事務局長が聖マリア学院大学より兼務

9. 聖マリアグループ

○社会医療法人雪の聖母会

聖マリア病院・聖マリアヘルスケアセンター

救命救急センターを中心として、地域に根ざした医療を目指す、診療科目41科、総病床数1,097床の総合病院です。

1953年の開設以来、「カトリックの愛の精神」に基づいた保健医療活動を行っており、聖マリアグループの中核を成す法人です。

2014年10月には、回復期リハビリ病棟・療養型病棟、人間ドッグ・内視鏡センター、透析センターの3部門から構成される聖マリアヘルスケアセンターを開院しました。

○公益財団法人福岡県すこやか健康事業団

2009年4月に、財団法人九州産業衛生協会と福岡県対がん協会が合併し発足しました。

従来、九州産業衛生協会が行ってきた、労働・環境衛生や人間ドックなどに加え、がん検診と予防に関する啓発活動などを行い、人々の健康づくりと福祉の向上への貢献を目指しています。

○社会福祉法人福成会

作業能力を持ちながらも、雇用されることの困難な障害者の方の社会活動への積極性をお手伝いする障害者支援施設「ウェルフェア MARIA」、「まちづくりワークショップ MARIA」や高齢者向けの施設、ケアハウス・デイサービスセンター「メゾン MARIA」などの運営を行っています。

○株式会社サンループ

聖 MARIA グループにて蓄積した医療現場での経験と実績を基に、人材派遣・業務請負・紹介予定派遣・人材紹介事業を行っています。

また、医療現場が直面しているさまざまな課題解決のための医療コンサルティングも実施しています。

○特定非営利活動法人 I S A P H (アイサップ)

聖 MARIA 病院の長年にわたる国際協力活動から生まれました。

それまで、聖 MARIA 病院で実施してきた国際協力活動の手法を活かして新たな活動を展開する NPO です。

当面、ASEAN 諸国の中で最も開発の遅れたラオスを中心に母子保健の向上を目指して支援を行っています。

○学校法人ありあけ国際学園

保健・医療・福祉分野の経営を担う人材を育成することを目的とした「保健医療経営大学」を運営しております。

幅広く活躍できる能力が修得できる充実したカリキュラムや、10万㎡(3万坪)という広大な地にゆとりある空間がちりばめられたキャンパスも魅力のひとつです。

○雪の聖母会健康保険組合

聖マリアグループ各法人（一部を除く）に勤務する職員同士の相互扶助を目的に、2008年12月に発足しました。

病気やけがをしたときの生活保障となる「保険給付」、日頃の健康増進を目的とした「保健事業」を展開し、職員間の生活上の不安を少しでもなくしていけるよう努めています。

Ⅱ. 事業の概要

1. 基本方針

大学をはじめとする高等教育機関を取り巻く状況は、主として学齢人口の減少に伴う競争的環境下に置かれ、各機関は教育・研究組織としての経営方針・戦略を明確化し、内外に示していくことが求められています。

教育・研究と、経営・管理の両軸が相互に有機的に機能し、中長期的視野に立ったより実践的な目標の明示と、それを実現する組織的行動、また、効果的な点検・評価体制の確立が必須となっているものです。

このことは、今後、ますます多様化することが予想される学生のニーズに的確に対応するため、各大学等に期待される役割・機能を十分に踏まえた教育や研究の推進を図るとともに、社会との連携を推進しながら、個々の機関が、その個性・特色を一層明確にしていかなければならないことを意味しています。

本学院におきましては、設立理念“カトリックの愛の精神”に基づく教育・研究の実践を堅持、継承し、「student focused education（学生に焦点を当てた教育の実践）」、さらには「enrollment management（入学前～在学中～卒業後の学生満足度の向上）」を経営指針として、中長期事業計画（理事会・評議員会決議）を踏まえた各種事業に取り組んで参りました。

2. 2014年度に実施した主な事業内容

2014年度は、本学がこれまで進めてきた一連の教育課程の設置（4年制大学への移行、大学院修士課程の設置、専攻科の設置）が完了し、大学としての機能が整いました。

これから求められる本学の役割は、関連する大学・高等学校・自治体等と連携を深め、各々が蓄積しているさまざまな知識や情報を共有し、広い視野を持った優秀な看護職者を一人でも多く輩出することであると考えております。

また、優秀な看護職者を輩出するためには、開学以来行ってきた学内活動に再度焦点を当て、教育の質向上による高度な看護知識と技術の教授のみならず、勉学以外の活動によって豊かな人間性を培うことも必要となってきます。

2014年度の本学では、それらの役割を果たすために、教職員・学生を問わず、本学関係者によるさまざまな主体的活動が行われました。

以下に、「経営・管理」、「教育・研究」、「学外連携」及び「地域貢献・国際交流」を枠組みとして主な事業項目の概要を示します。

①大学正門“NORTH GATE”供用開始

本学キャンパスの北側に造成工事を行ってありました新「正門」(NORTH GATE)が8月に供用開始しました。

旧正門は細い路地の奥深い場所にあったため、来訪者には分かりにくく、大型車両も入れない状況でありましたが、今回、新たな正門が竣工したことにより、幹線道路を結ぶ市道と直結したことで、本学へのアクセスが容易になりました。

同時に7号館～正門間の通路も完成し、芝生を張ったベンチ付の歩道を設け、地域の皆様の憩いの場としても利用いただけるようにいたしました。

また、片側一車線の広い車道で車両の通行を容易にしたほか、通路上に防犯カメラを設け24時間監視することで、安全性も確保しています。

旧正門は「東門(EAST GATE)」として今後も引き続き運用してまいります。



新正門



7号館～正門間通路

②「まちなか保健室・ほっとステーションマリア」

地域貢献の一環として久留米市内商店街の「一番街プラザ」に開設された、無料健康相談コーナー「まちなか保健室・ほっとステーションマリア」は2015年2月に開設6周年を迎えました。

本年度の来館者数は延べ7,835名、相談者数は延べ753名となり、昨年度に比して大幅な減少となりましたが、ほぼ毎日来訪される方も徐々に増え始め、地域に暮らす高齢者の憩いの場としての一役を担っています。

施設面での経年劣化も目立ち始めており、今後5年先、10年先を見据えてハード・ソフトの両面から今後のあり方について再検討すべき時期ではありますが、今後とも施設管理者と密な連携を図り、更なるサービスの向上に努めてまいります。



ほっとステーションマリア

③シスター・カリスタ・ロイ博士来学

本学の教育課程の根幹を成す看護理論「ロイ適応看護モデル」の提唱者である、アメリカ合衆国・ボストンカレッジのシスター・カリスタ・ロイ博士が9月に来学されました。ロイ博士の来学は2009年6月以来、5年ぶりです。

ロイ博士滞在中は、Roy Adaptation Association (RAA) の日本支部 (RAA-J) 主催カンファレンスが行われ、学内外の多数の医療関係者に向けて講演が行われたほか、本学大学院での講義や学生との交流会が行われました。

参加者一同、「ロイ適応看護モデル」に対するさらなる理解を深めるための貴重な機会となりました。



シスター・カリスタ・ロイ博士



本学学生との交流会

④明光学園「キャンパスデザイン講座」

本学の系属校である明光学園高等学校におきまして、12月に「キャンパスデザイン講座」が行われました。

これは同校が主催し、1学年生徒が大学での学問や最先端の技術を身近に感じ将来像を明確にすることを目的としているもので、本学のみならず近隣大学や専門学校も参加しています。

本学は2日間に亘り「看護・看護師ってなんだろう」をテーマに、初日は本学教員を同校へ派遣しての講義、2日目は同校生徒が来学して施設見学や母性看護学の実習体験が行われました。

高度な専門性が求められる看護学を早い時期から知っていただくことで、人間の命の大切さを感じ、1人でも多くの看護師が生まれることを願って、次年度以降も引き続きこの活動に参加してまいります。



本学での実習体験の様子

⑤被災地支援（ボランティア派遣等）

昨年度に引き続き、本年度も被災地へボランティアを派遣しました。本年度は教職員1名及び学生18名を岩手県釜石市、南三陸町、福島県南相馬市へ派遣しました。

現地では、漁業支援として特産品の「わかめ」の出荷作業、農業支援として農地整備を行い、派遣先地域のニーズに応じた活動を行うことができました。また、現地の皆様とお茶を飲みながら語り合う「お茶っ子サロン」も行われました。

今後もカトリックセンターが主体となって、被災地に対するあらゆる角度からの支援活動や、被災地の皆様との交流活動を続けてまいります。



農地整備の様子



わかめ出荷作業の様子

⑥公開講座の実施

例年開催している公開講座も7年目を迎え、「よりよく生きる」をテーマに5回シリーズで開催しました。本年度は各講座においてメッセージ性のあるタイトルを設定し、各講師から専門的な内容を分かりやすく伝えていただきました。

また、本年度は初めてシリーズの中に「移植医療」を深く考える機会を設けました。専門家によるリレー形式の講演、臓器移植を受けた患者様によるピアノ演奏や「分かち合い」（体験談や思いを共有する場）が設けられるなど、毎回の公開講座とは異なる形式での開催となりました。

会場からは「臓器の移植について聞くことができ、希望が持てた」「移植で元気になられた話を聞き、人間の体が再生される事が素晴らしいと思った」などといった声が聞かれ、移植医療の重要性が伝わる有意義な時間となりました。

今後は、講師が講演するだけの形式ではなく、講師や参加者が意見交換できるような形式の講座を増やし、地域の皆様と共に“ケアリング（お互いを尊重し合える）文化”の創造を目指してまいります。

2014年度公開講座実施内容

第1回／「健やかな子供の育成と街づくり」

講師：公益財団法人福岡県すこやか健康事業団
理事長 瓦林 達比古

第2回／「生命のおくりもの ～話そう、大切なことを大切な人と～」

講師：聖マリア病院研究所 所長／本学 客員教授
藤堂 省

第3回／「生活の場で自分らしく過ごしたいと思う貴方へ」

講師：訪問看護ステーションくるめ 所長 荒巻 初子

第4回／「健やかな老後を迎えるために～認知症予防～」

講師：本学講師 鮎川 春美

第5回／「気軽にできる転倒予防」

講師：本学講師 松永 智子



第2回公開講座の様子

⑦学生サークルによる学外活動

本学には多くの学生サークルが日々活動しておりますが、本年度は学生サークルにおいて学外向けの活動が盛んに行われましたので、その一部をご紹介します。

○Marian Blue（聖マリア学院大学 BLS&ALS クラブ）

Marian Blue は、九州圏内の医学部医学科、看護学科、薬学科、リハビリテーション科と連携・協力し、学生を中心とした一次救命救急の技術の修得や、地域住民への普及活動などを行っています。BLS（Basic Life Support）は一次救命処置、ACLS（Advanced Cardiovascular Life Support）は二次救命処置を意味します。

学内ワークショップを毎年2回開催しており、5月に開催した第7回ワークショップには、本学から学生10名、他大学から5名が参加しました。また、インストラクターとして本学部員のほか九州圏内の8大学から38名が参加し、過去最高の参加者数となりました。

また、久留米市の中心商店街の夏のイベント「土曜夜市」において、来訪者を対象とした「即席BLS講座」を開設しました。クラブの目的の一つとして、BLSの普及を掲げているため、こどもたちにもわかる「BLSの手順」と「AEDの操作」についてのキーホルダーを作成し、体験者に配布しました。



ワークショップの様子



土曜夜市で配布したキーホルダー

○ボランティアサークル「ふいりあ」

ボランティアサークル「ふいりあ」は、東日本大震災の復興支援を中心に活動するサークルです。

実際に被災地に赴いて各種作業等のボランティア活動を行い、現地での体験や見聞したことを、報告会をはじめとした様々な活動を通して皆様にお伝えしています。

本年度は例年の学院祭での報告会開催に加えて、久留米市の中心商店街の夏のイベント「土曜夜市」において、復興支援グッズの販売を通して、「東日本大震災を忘れない」というメッセージを伝える活動を行いました。

岩手県南三陸町で作られた缶バッジ・クリアファイル・キーホルダーといった身近なところで使えるものを通して、「目にするたびに東日本大震災の出来事を思い起こし、祈るきっかけになるように」との願いを込めて販売しました。

⑧各種研修会の開催

本年度は本学が加盟する各種団体において、本学が当番校として主催する研修会を数多く開催してきました（一部他大学等との共同開催あり）。その一部をご紹介します。

○日本私立看護系大学協会「大学における教育に関する事業」

本学は過去7年にわたり本事業を担当しており、本年度も本学と帝京大学、甲南女子大学の3大学が担当校としてセミナーを開催しました。

本年度は、新任教員のための研修会を新たに追加し、昨年度から継続している企画として、中央教育審議会答申を踏まえた能動的学修（アクティブ・ラーニング）についてルーブリックを体験する企画を組みました。

1. 「大学新任教員のための研修会2014」参加者145名（93校）
2. 「主体的な学び体験をつくる大学授業法」参加者102名（44校）

○日本カトリック大学連盟職員セミナー

「カトリック大学における教学マネジメント～キリシタン信仰の原点を視座として～」をテーマに、9月に本学及び福岡市内で開催しました。

学校法人純心女子学園理事長・シスター片岡千鶴子氏の基調講演に始まり、その後のグループディスカッション等を通して、カトリック教育の原点に立ち返り、建学の精神に基づく教育の継承と大学教育の質保証を担保とするための教学マネジメントの在り方について考える機会となりました。

○筑後地区カトリック学校協議会（仮）研修会

筑後地区に所在するカトリック学校の協同活動として、10月に各学校の幹部教職員を対象とした研修会を開催し、熊本マリスト学園、久留米信愛女学院、明光学園、本学から約20名が参加しました。

熊本マリスト学園により「カトリック学校の改革事例―設立理念の継承と発展― 熊本マリスト学園の取り組み」をテーマとした発表が行われ、各学校の参加者同士で活発な意見交換が行われました。



カトリック大学連盟セミナー



筑後地区カトリック学校協議会（仮）

⑨ティーチング・ポートフォリオ（TP）更新ワークショップ

本学では2006年度の大学開学以来、教員が教育活動及び研究活動に積極的に取り組める環境づくりを目指し、例年FD活動に力を入れております。

その活動の一環として2009年度より、教育活動のリフレクション（自己省察・内省）及び持続的改善を目的としてTPを作成、2010年度からは2泊3日のワークショップ形式で実施しています。

TPは単なる教育活動評価ではなく、定期的に短期目標を評価するPDCAサイクルに沿ってリフレクションすることで継続的な教育活動を実践するものです。学内TP作成者が増えている現状を受け、今年初めて1日間の日程でTP更新ワークショップを開催し、佐賀大学大学院工学系研究科教授・皆本晃弥氏を講師に迎え、2名の教員が更新を行いました。

本ワークショップは「更新したいけども、一人では更新しない／できない」教員のために企画しており、更新だけでなくメンターとしてのスキルアップも目指し、今後も引き続き実施してまいります。

⑩国家試験対策への取り組み ～国家試験フェアの開催～

昨年度初めて実施し、国家試験の合格率の向上につながった「国家試験フェア」

を本年度も開催いたしました。

本年度は保護者の参加も多く、学生自身の将来を左右する国家試験に対する意識の高さを伺うことが出来ました。

本年度も昨年度同様、本学における国家試験対策の取り組み状況、今後の対策、先輩の取り組み例などが紹介されました。また、専門業者から講師を招き、国家試験の概要や傾向、実習と国家試験の関連性など、あらゆる角度から分かりやすく説明していただきました。

その後はチューターごとに分かれ、各自の目標や取り組みを設定し、本格的な国家試験に向けた学習がスタートしました。

高校入試や大学入試とは異なり、国家試験では高度かつ専門的な知識が問われます。教員や保護者をはじめとした周囲からの精神面・環境面でのサポートも対策の一つとして考える本学にとって、国家試験フェアは今後も継続して開催すべき重要行事として位置づけております。

本年度の本学における国家試験合格率は、看護師で微減となったものの、保健師と助産師では100%を達成し、取り組みの成果が徐々に結果として現れ始めてきております。次年度こそは看護師国家試験合格100%を目指し、さらなる国家試験対策に努めてまいります。



国家試験フェア

⑪国際交流

本学の教育の特色のひとつである「国際看護教育」に基づく国際交流の一環として、本年度も昨年度に引き続き、7月に釜山カトリック大学校、1月に韓国カトリック大学校（ソウル）より実習生をそれぞれ10名受け入れました。

また、例年実施している米国研修旅行を今年は参加者を大幅に増やして実施し、20名の学生が姉妹校であるロサンゼルス・マウントセントメリー大学やハ

ワイ州の施設への訪問等を行い、看護の知見を深め、視野を広げることができました。

さらに、2013年8月に交流協定を締結したタイ王国・セントルイスカレッジにおいては、同校大学院生が研修のために来学されたほか、本年より同校教員と本学教員との間で共同研究が開始されました。

従前の学生間の交流や実習受け入れだけでなく、教員間の共同研究が開始されたことで、本学の国際交流活動が本格化してまいりました。今後は、本学学生の海外実習の派遣や、海外大学等との連携を中心とした国際化推進活動に力を入れてまいります。

⑫外部資金の獲得状況

本学では外部研究資金獲得を全学的に励行しています。本年度も前年度に引き続き、多数の科学研究費が採択されました。

■科学研究費補助金（文科）

採択 25 件 / 助成金額 13,582,341 円

（内、研究分担金 採択 12 件／助成金額 1,710,534 円）

■科学研究費補助金（厚労）

採択 1 件 / 助成金額 1,000,000 円

（内、研究分担金 採択 1 件／助成金額 1,000,000 円）

■厚生労働科学研究委託費

採択 2 件 / 助成金額 8,993,000 円

（内、研究分担金 採択 1 件／助成金額 1,300,000 円）

■私立大学等経常費助成（国庫補助）

補助金額 99,423,000 円

■久留米市「学術研究機能拡充促進補助金」

助成金額 21,770,000 円

3. 2014年度入試結果

○聖マリア学院大学

<看護学部看護学科>

区 分	募集人員	出願者数	受験者数	合格者数	入学者数
推 薦（系属校）	若干名	2	2	2	2
推 薦（指定校）	35 名	32	32	32	32
推 薦（公募制：前期）		53	51	40	27
推 薦（公募制：後期）	5 名	21	21	11	11
社会人	若干名	1	1	1	1
学士・短期大学士	若干名	1	1	0	0
一 般	44 名	180	173	88	37
センター利用（前期）	10 名	42	24	12	4
センター利用（後期）	若干名	6	4	2	1
合 計	100 名	338	309	188	115

<専攻科助産学専攻>

区 分	募集人員	出願者数	受験者数	合格者数	入学者数
推 薦	10 名	6	6	6	5
一般（前期）	5 名	4	3	3	2
一般（後期）		0	0	0	0
追加募集	5 名程度	0	0	0	0
合 計	15 名	10	9	9	7

○聖マリア学院大学大学院

<看護学研究科>

区 分	募集人員	出願者数	受験者数	合格者数	入学者数
一 般（夏期）	12 名	0	0	0	0
社会人（夏期）		0	0	0	0
一 般（秋期）		0	0	0	0
社会人（秋期）		1	1	1	1
一 般（春期）		0	0	0	0
社会人（春期）		9	9	9	9
合 計	12 名	10	10	10	10

4. 卒業生の主な進路状況

○聖マリア学院大学

(平成27年3月卒業生)

区分	就職者数	主な進路先
県内病院	66	聖マリア病院、九州大学病院、久留米大学病院、福岡大学病院 他
県外病院	26	佐賀大学医学部附属病院、長崎大学病院、東京女子医科大学病院 他
医療機関外	1	朝倉市役所
進 学	6	聖マリア学院大学専攻科助産学専攻

○聖マリア学院大学専攻科助産学専攻

(平成27年3月修了生)

区分	就職者数	主な進路先
県内病院	1	聖マリア病院
県外病院	3	愛媛大学医学部附属病院、東京慈恵会医科大学附属病院 他

○聖マリア学院大学大学院

(平成27年3月修了生)

区分	就職者数	主な進路先
県外病院	2	佐賀県医療センター好生館、熊本大学病院
医療機関外	1	鳥取看護大学助教(教員)

※上記は新卒者のみの数値である。

(社会人学生は除く)

5. 国家試験の合格状況

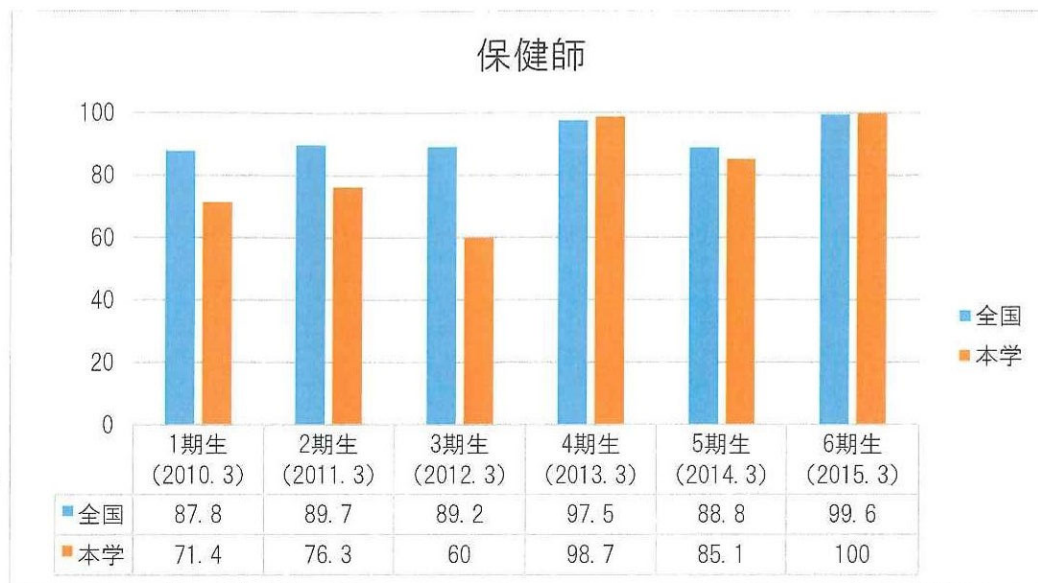
2015年2月実施

	本学における結果（名） 合格者数 / 受験者数	合格率（%） 本学 / 全国
看護師	98 / 103	95.1 / 95.5
保健師	63 / 63	100 / 99.6
助産師	4 / 4	100 / 99.9

※上記は新卒者のみの数値である。

～合格率の推移～





※上記は新卒者のみの数値である。

※助産師は2013年3月卒業者までが看護学部、
2014年3月修了者以降は専攻科の結果である。

6. 学年暦

4月 1日 (火)	学年はじめ
4月 4日 (金)	平成26年度入学式
4月 7日 (月) ~ 10日 (木)	新年度オリエンテーション・健康診断
4月11日 (金)	前期開講
4月18日 (金)	新入生歓迎会
7月中旬	前期単位認定試験 (看護学部3年)
7月下旬	前期単位認定試験 (看護学部1・2年)
8月上旬	夏期休業開始
9月15日 (月)	夏期休業終了
10月 1日 (水)	後期開講
10月 4日 (土)	やすらぎのつどい
10月11日 (土)	召命のつどい
11月10日 (月)	聖マリア病院慰霊祭
11月 8日 (土)	学院祭
12月 8日 (月)	創立記念日 (無原罪の聖マリアの祭日)
12月25日 (木)	合同クリスマス
12月26日 (金)	冬期休業開始
12月27日 (土)	第65回聖マリア医学会研究会
1月10日 (土)	冬期休業終了
1月下旬	後期単位認定試験 (看護学部2年)
2月上旬	後期単位認定試験 (看護学部1年)
3月 7日 (土)	平成26年度学位授与式
3月15日 (日) ~ 22日 (日)	米国研修旅行

Ⅲ. 財務の概要

1. 学校法人会計の概要及び企業会計との違い

学校の経営に伴う経理処理については、学校法人会計基準（文部科学省令）により定められており、主要な財務計算書類として「資金収支計算書」「消費収支計算書」及び「貸借対照表」の作成が義務付けられています。

企業の財政構造が、「モノ」を生産・販売することにより投資した資本を回収するとともに利潤を獲得し、獲得した利潤により新たな設備投資や既存の設備の改修が可能となる「生産経済体」であるのに対し、学校法人は、学生が入学することで学納金により収入を確保できる一方、支出が増加した場合、それに見合った収入の増加を図ることが難しい「消費経済体」です。

企業会計の目的が営利目的の事業活動の成果と財政状態を利害関係者に開示するところにあるのに対し、学校法人会計は財政面から学校経営における教育研究活動の健全性を測定し、開示することを目的としています。

以下に、各計算書の概要を記し、平成26年度の本法人の決算につきご報告します。

2. 「資金収支計算書」の概要

当該年度の諸活動に対する全ての収入及び支出の内容を明らかにし、支払資金（現金及び預貯金）の顛末を表すものです。
（企業会計の「キャッシュ・フロー計算書」に類似したものです。）

主な収入（科目説明）

学生納付金収入（学生からの授業料・入学金等収入）	:	802,108 千円
補助金収入（国及び久留米市からの助成金）	:	124,190 千円
前受金収入（翌年度に入学予定の学生からの入学金、授業料等）	:	140,529 千円

収入の部合計 : 2,452,125 千円

主な支出（科目説明）

人件費支出（教職員に支払われる給与・賞与）	：	569,708千円
教育研究経費支出（学生の学習支援、課外活動費、教育研究活動費等）	：	175,348千円
管理経費支出（法人運営に係る費用、学生募集活動費用等）	：	73,219千円
施設関係支出（土地・建物・構築物を取得するための費用）	：	8,667千円
設備関係支出（教育研究用の機器備品、その他の機器備品、 図書等を取得するための費用）	：	9,271千円
資産運用支出（将来を見据え資金を積立・運用するための支出等）	：	29,490千円
資金支出調整勘定（支出として計上していたが、未払いとなつて いるものや、前払支払支出として前年度までに 支払っている経費を差引くことにより資金の 支出額を調整するためのもの）	：	△31,904千円

支出の部合計 ： 2,452,125千円

資金収支計算書

（単位；円）

資金収入の部		資金支出の部	
科 目	26年度決算額	科 目	26年度決算額
学生納付金収入	802,108,200	人件費支出	569,707,687
手数料収入	13,012,770	教育研究経費支出	175,347,890
寄付金収入	30,927,510	管理経費支出	73,219,220
補助金収入	124,190,000	施設関係支出	8,667,000
資産運用収入	5,189,408	設備関係支出	9,270,803
事業収入	17,961,000	資産運用支出	29,490,000
雑収入	36,046,001	その他の支出	28,307,365
前受金収入	140,528,500	予備費	-----
その他の収入	137,699,019	資金支出調整勘定	△ 31,904,213
資金収入調整勘定	△ 178,003,958		
前年度繰越支払資金	1,322,466,477	次年度繰越支払資金	1,590,019,175
収入合計	2,452,124,927	支出合計	2,452,124,927

3. 「消費収支計算書」の概要

当該会計年度の消費収入及び支出の内容と均衡状態を明らかにし、固定資産の経過的価値の減少（減価償却額）や、将来的な負債を考慮した計算書で、学校法人の財政的な経営状況を表すものです。

（企業会計の「損益計算書（P/L）」に相当するものです。）

主な収入（科目説明）

寄付金収入（学校法人への寄付による収入・消費収入の部には 現物による寄付も含まれる）	： 32,887 千円
事業収入（学生寮に係る寮費納付金の収入等）	： 17,961 千円
帰属収入（学校法人が提供した教育・研究等の対価として 受取る収入で負債とならない収入）	： 1,035,360 千円
基本金組入額（当該年度に取得した施設・設備等の額及び将来 に向けて積み立てる額等）	： △48,264 千円
収入の部合計	： 987,096 千円

主な支出（科目説明）

減価償却費（既存の建物・土地・備品等の固定資産に係る償却費用）	： 120,993 千円
資産処分差額（保有資産の除却に係る期末簿価を計上）	： 170 千円
支出の部合計	： 934,951 千円

当年度消費収入超過額

（当年度の経営状態を示す額）： 52,145 千円

消費収支計算書

(単位：円)

消費収入の部		消費支出の部	
科 目	26 年度決算額	科 目	26 年度決算額
学生納付金	802, 108, 200	人件費	565, 221, 087
手数料	13, 012, 770	教育研究経費	276, 981, 986
寄付金	32, 887, 364	管理経費	92, 578, 095
補助金	124, 190, 000	資産処分差額	169, 973
資産運用収入	5, 189, 408		
事業収入	17, 961, 000		
雑収入	40, 011, 501	予備費	-----
帰属収入合計	1, 035, 360, 243		
基本金組入額合計	△ 48, 263, 967		
収入合計	987, 096, 276	支出合計	934, 951, 141
		当年度消費収入超過額	52, 145, 135
		前年度繰越消費	△ 535, 827, 536
		支出超過額	
		翌年度繰越消費	△ 483, 682, 401
		支出超過額	

4. 「貸借対照表」の概要

期末（会計年度末）における総資産及び総資金（負債、基本金、収支差額）の価額とその内訳を明らかにし、財政状態の健全性を表すものです。

（企業会計の「貸借対照表（B/S）」に相当するものです。）

固定資産（校地、校舎等建物、及び備品、図書等）	:	4, 652, 889 千円
流動資産（現金及び預貯金等）	:	1, 613, 063 千円
基本金の部合計（財政的な基盤を示す額、将来への資金）	:	6, 394, 102 千円
消費収支差額（資産から負債と基本金を差引いた額）	:	△483, 682 千円

貸借対照表

平成 27 年 3 月 31 日 現在

(単位 ; 円)

資産の部

科 目	本年度末	前年度末	増 減
固定資産	4,652,888,797	4,729,298,584	△76,409,787
流動資産	1,613,062,646	1,438,950,436	174,112,210
資産の部合計	6,265,951,443	6,168,249,020	97,702,423

負債の部

科 目	本年度末	前年度末	増 減
固定負債	170,484,044	174,970,644	△4,486,600
流動負債	185,047,773	183,267,852	1,779,921
負債の部合計	355,531,817	358,238,496	△2,706,679

基本金の部

科 目	本年度末	前年度末	増 減
第1号基本金	5,601,102,027	5,577,528,060	23,573,967
第2号基本金	730,000,000	705,310,000	24,690,000
第4号基本金	63,000,000	63,000,000	0
基本金の部合計	6,394,102,027	6,345,838,060	48,263,967

消費収支差額の部

科 目	本年度末	前年度末	増 減
翌年度繰越消費支出超過額	△ 483,682,401	△ 535,827,536	52,145,135
消費収支差額の部合計	△ 483,682,401	△ 535,827,536	52,145,135
負債の部、基本金の部及び 消費収支差額の部合計	6,265,951,443	6,168,249,020	97,702,423

5. 有価証券・特定金銭信託の時価情報

種 類	勘定科目	当年度(平成27年3月31日)【単位:円】		
		貸借対照表計上額	時 価	差 額
時価が貸借対照表 計上額を超えるもの	有価証券	100,000,000	101,001,000	1,001,000
(うち満期保有目的の債券)		(100,000,000)	(101,001,000)	(1,001,000)
時価が貸借対照表 計上額を超えるもの	特定金銭信託	200,000,000	202,000,000	2,000,000
(うち満期保有目的の金銭信託)		(200,000,000)	(202,000,000)	(2,000,000)

6. 主な施設設備の整備状況

会計区分	内容	金額
構 築 物	7号館北側正門整備工事	8,667 千円
教育研究用機器備品	小児用ベッド、沐浴人形他	5,997 千円 (57 点)
その他機器備品	北正門防犯カメラ	1,188 千円
図 書	研究用、図書館用、製本雑誌	8,011 千円 (1,275 冊)

7. 主な事業計画履行状況

事業計画内容	予算措置(千円)	達成度評価
建学の精神具現化への諸活動	1,000	○
基本金組入れ(校地取得計画)※1	24,690	◎
教育研究活動の活性化	1,000	○
包括的な修学支援環境の整備・拡充(リメディアル教育等)	2,000	○
被災地支援に係る諸活動の継続	1,000	○
青少年育成、国際保健医療協力に係る寄付金支出	1,400	○
国家試験対策の促進	1,000	○
久留米市助成金(学術研究機能拡充促進補助金)※2	22,000	○
大学院生教育研究助成金	2,000	○
志願者増と安定的定員充足に向けた対策	1,000	○
出向扱い者等への退職金支出	16,107	◎

達成度評価→ 予算完全執行：◎ 予算概ね執行：○ 未執行：△

※1：新たな校地取得計画に向けた資金積み立て(追加積み立て)

※2：久留米市助成金は収入

8. 大科目の経過年度比較表 —平成22年度～平成26年度—

資金収支計算書

(単位；千円)

収入の部	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
学生納付金収入	797,143	785,246	774,870	801,217	802,108
手数料収入	18,955	18,938	17,507	15,422	13,013
寄付金収入	530	4,109	15,020	30,800	30,928
補助金収入	219,182	117,120	123,238	235,902	124,190
資産運用収入	5,256	4,922	4,721	4,042	5,189
資産売却収入	400,000	100,000	0	0	0
事業収入	10,484	8,969	9,052	8,136	17,961
雑収入	9,257	19,989	20,363	17,615	36,046
前受金収入	135,899	134,525	146,905	142,912	140,529
その他の収入	88,046	35,873	17,436	185,261	137,699
資金収入調整勘定	△194,156	△152,316	△151,488	△271,413	△178,004
前年度繰越支払資金	793,515	1,338,345	1,267,930	1,445,439	1,322,466
収入の部合計	2,284,112	2,415,720	2,245,555	2,615,333	2,452,125

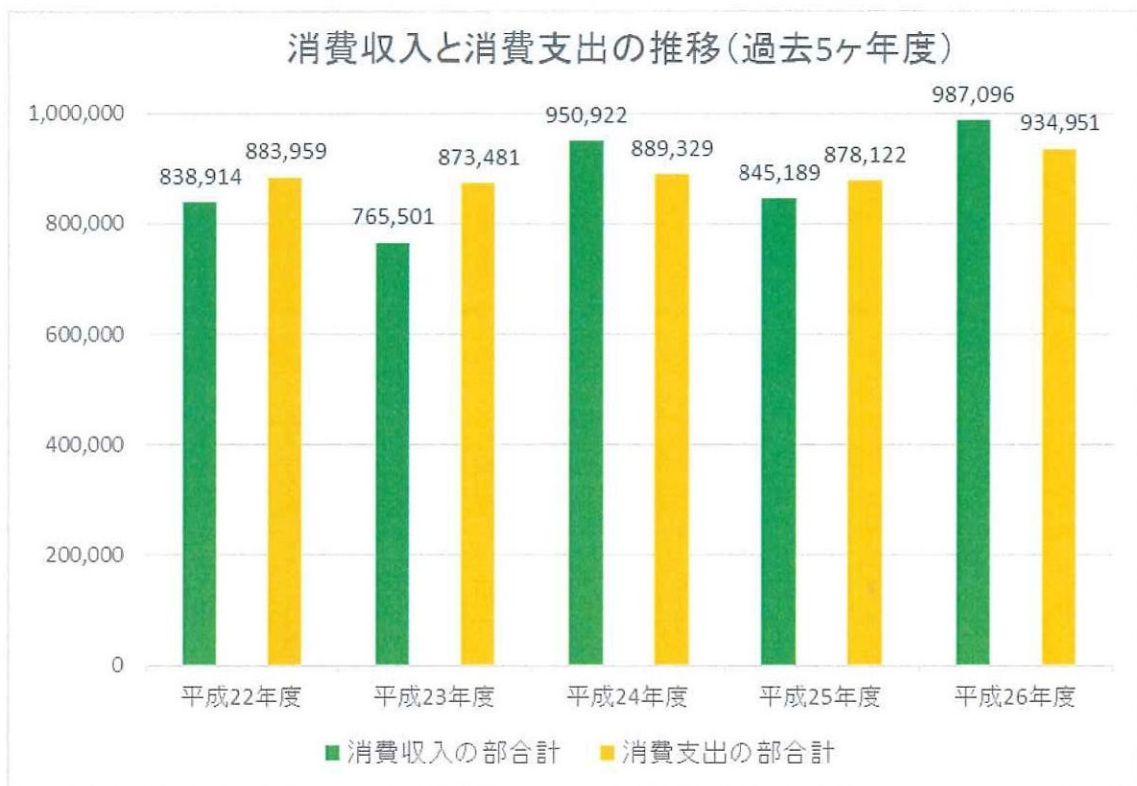
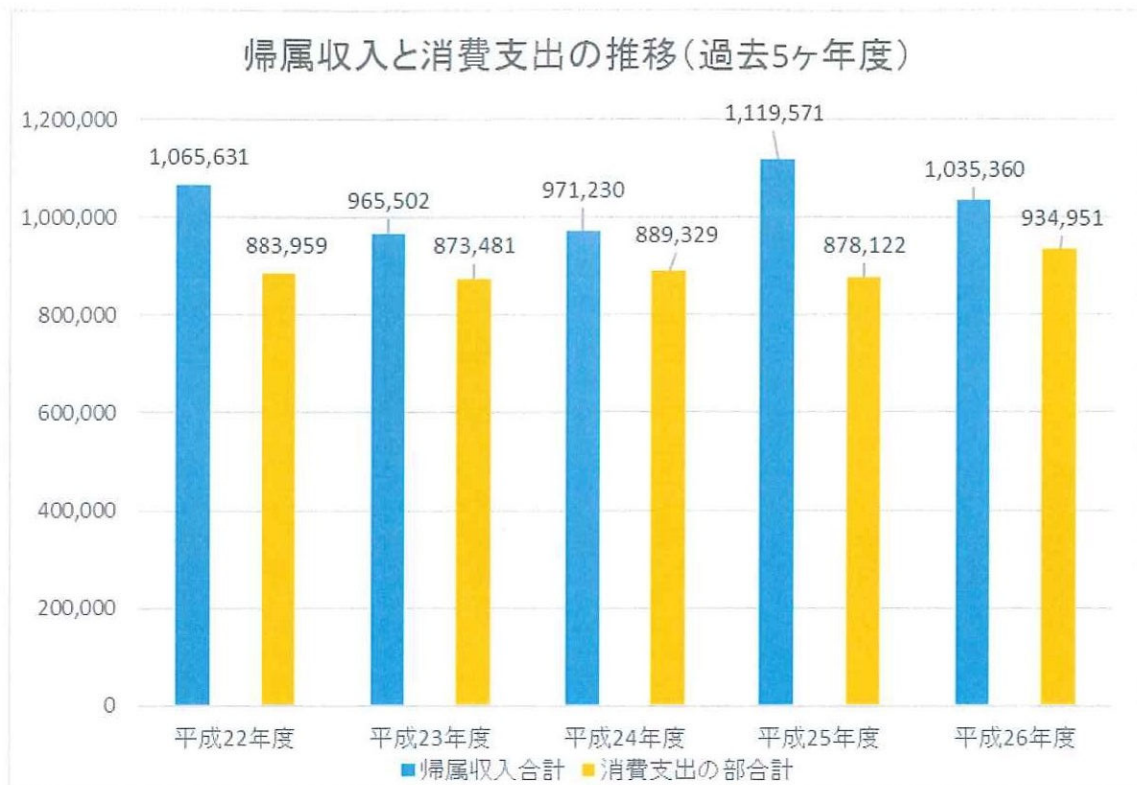
支出の部	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
人件費支出	488,873	511,850	517,119	526,560	569,708
教育研究経費支出	158,922	155,354	159,188	160,684	175,348
管理経費支出	69,355	65,439	70,062	70,065	73,219
借入金等利息支出	824	639	391	0	0
借入金等返済支出	3,880	3,880	11,640	0	0
施設関係支出	3,048	1,260	4,726	397,930	8,667
設備関係支出	15,724	7,701	23,773	28,398	9,271
資産運用支出	200,000	400,000	0	108,600	29,490
その他の支出	33,962	28,820	42,154	28,936	28,307
予備費	—	—	—	—	—
資金支出調整勘定	△28,820	△27,154	△28,936	△28,307	△31,904
次年度繰越支払資金	1,338,345	1,267,930	1,445,439	1,322,466	1,590,019
支出の部合計	2,284,112	2,415,720	2,245,555	2,615,333	2,452,125

消費収支計算書

(単位：千円)

収入の部	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
学生納付金	797,143	785,246	774,870	801,217	802,108
手数料	18,955	18,938	17,507	15,422	13,013
寄付金	1,469	5,986	17,744	32,770	32,887
補助金	219,182	117,120	123,238	235,902	124,190
資産運用収入	5,232	4,922	4,721	4,042	5,189
事業収入	10,484	8,969	9,052	8,136	17,961
雑収入	13,165	24,321	24,097	22,082	40,012
帰属収入合計	1,065,631	965,502	971,230	1,119,571	1,035,360
基本金組入額合計	△226,716	△200,000	△20,308	△274,382	△48,264
消費収入の部合計	838,914	765,501	950,922	845,189	987,096

支出の部	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
人件費	496,840	511,382	533,621	529,018	565,221
教育研究経費	291,657	272,822	264,023	260,102	276,982
管理経費	94,638	87,814	90,030	89,002	92,578
借入金等利息	824	639	391	0	0
資産処分差額	0	824	1,264	0	170
予備費	—	—	—	—	—
消費支出の部合計	883,959	873,481	889,329	878,122	934,951
当年度消費支出超過額	△45,045	△107,979	61,593	△32,933	52,145
前年度繰越消費収支超過額	△419,537	△464,582	△564,488	△502,895	△535,828
基本金取崩額	—	8,073	—	—	—
翌年度繰越消費収支超過額	△464,582	△564,488	△502,895	△535,828	△483,682



※単位：千円

※帰属収支差額（帰属収入－消費支出）は純資産の増加を表す

貸借対照表

(単位;千円)

資産の部	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
固定資産	4,272,896	4,547,399	4,456,288	4,729,299	4,652,889
流動資産	1,465,467	1,277,342	1,468,652	1,438,950	1,613,063
資産の部合計	5,738,363	5,824,741	5,924,940	6,168,249	6,265,951

負債の部	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
固定負債	168,119	163,771	172,513	174,971	170,484
流動負債	175,605	174,310	183,865	183,268	185,048
負債の部合計	343,723	338,081	356,378	358,238	355,532

資産の部	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
第1号基本金	5,140,912	5,132,838	5,153,146	5,577,528	5,601,102
第2号基本金	655,310	855,310	855,310	705,310	730,000
第4号基本金	63,000	63,000	63,000	63,000	63,000
基本金の部合計	5,859,222	6,051,148	6,071,456	6,345,838	6,394,102

消費収支差額の部	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
翌年度繰越消費収支超過額	△464,582	△564,488	△502,895	△535,828	△483,682
消費収支差額の部合計	△464,582	△564,488	△502,895	△535,828	△483,682
負債の部合計、基本金の部 及び消費収支差額の部合計	5,738,363	5,824,741	5,924,940	6,168,249	6,265,951

9. 主な財務比率の経過年度比較表

比 率	算式(×100)	平成22年度 (決 算)	平成23年度 (決 算)	平成24年度 (決 算)	平成25年度 (決 算)	平成26年度 (決 算)
人件費比率 ★	$\frac{\text{人件費}}{\text{帰属収入}}$	46.6%	53.0%	54.9%	47.3%	54.6%
教育研究 経費比率 ☆	$\frac{\text{教育研究経費}}{\text{帰属収入}}$	27.4%	28.3%	27.2%	23.2%	26.8%
管理経費 比率 ★	$\frac{\text{管理経費}}{\text{帰属収入}}$	8.9%	9.1%	9.3%	7.9%	8.9%
消費支出 比率 ★	$\frac{\text{消費支出}}{\text{帰属収入}}$	83.0%	90.5%	91.6%	78.4%	90.3%
消費収支 比率 ★	$\frac{\text{消費支出}}{\text{消費収入}}$	105.4%	114.1%	93.5%	103.9%	94.7%
学生納付金 比率 —	$\frac{\text{学生納付金}}{\text{帰属収入}}$	74.8%	81.3%	79.8%	71.6%	77.5%
寄付金比率 ☆	$\frac{\text{寄付金}}{\text{帰属収入}}$	0.1%	0.6%	1.8%	2.9%	3.2%
補助金比率 ☆	$\frac{\text{補助金}}{\text{帰属収入}}$	20.6%	12.1%	12.7%	21.1%	12.0%
基本金組入 比率 ☆	$\frac{\text{基本金組入額}}{\text{帰属収入}}$	21.3%	20.7%	2.1%	24.5%	4.7%

☆：高い値が良い

★：低い値が良い

—：どちらともいえない

10. 平成26年度決算総評

平成26年度における帰属収入は、1,035,360,243円となり、基本金組入後の消費収入は987,096,276円となりました。授業料、入学金等の学生納付金収入が802,108,200円と約8割を占め、ついで補助金収入が124,190,000円となっております。補助金収入のうち21,770,000円は久留米市より大学院設置事業について受給したものでありますが、当該補助金については今年度が最終交付年度となっております。

支出につきましては、人件費支出が565,221,087円であり帰属収入に占める割合（人件費比率）が、昨年度より上昇しておりますが、昨年度は施設整備に関する補助金を獲得したことにより、帰属収入が例年より約1億円増加しております。

よって、当該数値は急な人件費上昇を示すものではありません。

また、教育研究経費、管理経費におきまして、いずれも予算を下回り、結果として当年度消費収入超過額が52,145,135円と、単年度ベースで見ると黒字の経営状況となりました。

本年度は、北正門整備以外に特に大きな設備投資を行わなかったことも幸いしているといえます。

本学の場合は、堅調な財政計画のもと施設整備を行っておりますが、今後積み立てを行った年でも収支状況が均衡するよう、さらなる財政基盤の充実に施策的に取り組んでまいります。

学校法人聖マリア学院

聖マリア学院大学 看護学部／専攻科助産学専攻
聖マリア学院大学大学院 看護学研究科

〒830-8558

福岡県久留米市津福本町422番地

TEL 0942-35-7271（代表）

FAX 0942-34-9125

<http://www.st-mary.ac.jp/>